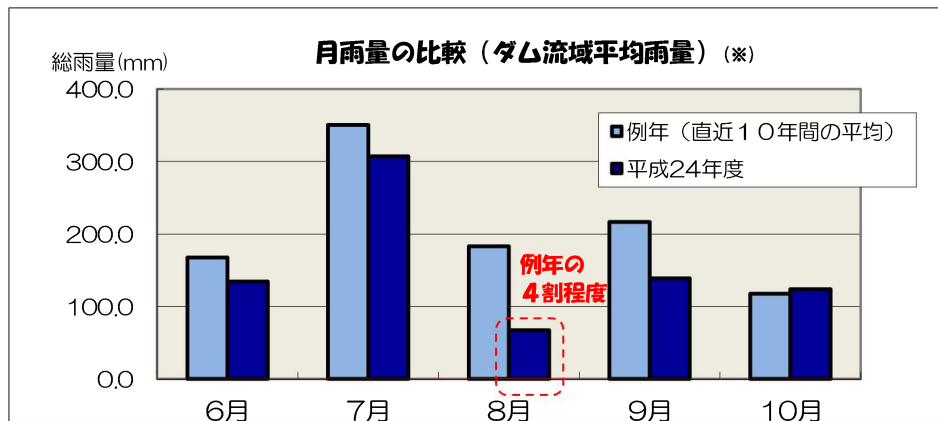


## 洪水期を振り返って

大長見ダムでは6月16日から9月30日までの洪水期を終え、非洪水期に入っています。今年の洪水期は、周布川では大きな水害もなく無事に終わることができました。下の図は今年度の月別雨量を例年と比較したのですが、これによると、今年度の洪水期は例年に比べて雨が少なかったことがわかります。特に8月の降水量は例年の4割程度と、非常に少ない値でした。



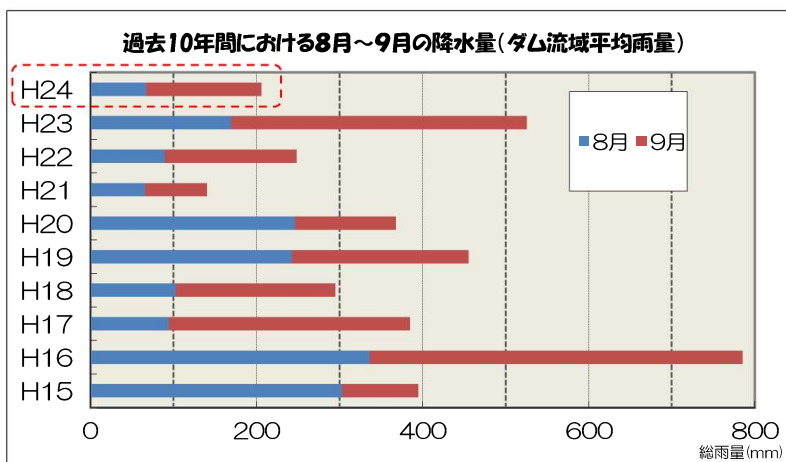
(※)ダム流域平均雨量とは

大長見ダム雨量局と、ダム上流の金城町にある小国雨量局、若生雨量局の3つで観測された雨量を平均したものです。

## 渇水の状況について

今年は8月、9月の降水量が特に少なく、過去10年で2番目に少ない年となりました。大長見ダムでは貯水量が少なくなり、今後の水利用に影響が生じる恐れがある事から、中場水位観測所での流量を $2.00\text{m}^3/\text{s}$ 程度に制限しています。(通常は $2.61\text{m}^3/\text{s}$ )

この流量については、渇水対策会議(中国電力(株)、浜田市役所、浜田市消防本部、浜田県土整備事務所)において検討し、決定しています。なお、11月中旬現在では少しずつダム水位が回復しています。



ダム貯水池上流の様子(大長見管理道付近)

大長見ダムに関する疑問、質問等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

島根県浜田県土整備事務所  
御部・大長見ダム管理グループ  
〒697-0041 島根県浜田市片庭町254  
TEL.0855-29-5674



シマネスク・島根

裏面もご覧ください

# 出前講座を行いました。

10月24日に周布小学校4年生の皆さんを対象に出前講座を行いました。過去の水害についての勉強やダムモデル実験などにより、大長見ダムの役割や仕組みについて学んでもらいました。

大長見ダムについて出前講座を行うのは初めてでしたが、4年生の皆さんはとても熱心に話を聴いておられ、とても実りのある出前講座になったと感じています。



まず、大長見ダムについての説明を聴いてもらいました。



ダムの警報車で放送体験をしているところです。洪水時に行うダムからの警報について知ってもらうため、マイクで放送してもらいました。



ダムの模型を使った実験では、実際に水を流すことで、ダムの洪水調節の仕組みや、ダムがなかったらどうなるかを勉強しました。

大長見ダムは周布川上流の山奥にあるため、皆さんにとって普段の生活の中では意識しにくい部分があるかと思います。そのため、出前講座などにより、ダムが下流に住む人々の生活とどう結びついているかについて理解してもらうことはとても大切なことだと感じています。今後もこのような出前講座を実施したいと考えていますので、出前講座実施のご希望がございましたら表面に記載の「御部・大長見ダム管理グループ」までご連絡ください。

## ◆出前講座メニュー

- ・過去の水害について（昭和58年災害、63年災害のビデオ映像）
- ・ダムの役割と仕組みについて
- ・模型実験（洪水調節の仕組みについて、実際に水を流す実験を行います）

## 大長見ダムQ&A

Q. 大長見ダムを造るにあたり、どのような願いがこめられましたか？

A. 下流の皆さんの命や家を洪水から守ること、豊かな自然を守り生活に役立つことを願って造られました。

出前講座の際、実際に小学校の皆さんからいただいた質問です。

